

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 4月号

1. Web 用オリジナル青果物ソング「We Love ドリーム♡ちゅうおう」を制作

J A 鳥取中央は3月12日の青果物販売取引 Web 会議の中で、産地の想いを市場に伝えるために、生産部の代表と J A 役員とで Web 用オリジナル青果物ソング「We Love ドリーム♡ちゅうおう」を披露した。

Web 用に歌を制作し、生産者と J A 役員が市場に向かって歌を発信するのは全国で初の試み。特産物の特長や効能を歌詞に載せて、市場へ向けて産地を P R した。

タイトルの「Love」には同 J A が掲げる経営理念「農業愛、人間愛、中央愛」のうちの「農業愛」の意味を込めている。作詞作曲は、地元湯梨浜町で「歌う講演家」として活躍する石川達之さんに依頼した。

実家が梨農家という石川さんは、「生産者の想いをメロディーや歌詞に乗せて伝わればという思いで制作した」と話した。歌詞にはスイカや梨などの基幹品目の特長や効能を織り交ぜ、語尾には鳥取県の方言を盛り込んだレゲエ調に仕上げた。

同 J A の栗原組合長は「大人から子どもまで多くの人に聞いてもらい実際に食べてもらうことで消費者を元気にしたい。また産地、J A が元気であることも歌を通して伝えたい」と話した。



2. 直売所「三朝おひさま市」がリニューアルオープン

J A 鳥取中央女性会三朝支部の出荷者らが運営する農産物直売所「三朝おひさま市」が3月22日、リニューアルオープンした。店内の床や照明器具、外装などを一新し、壁の修繕には県産の木材、店内にあるカフェスペースのテーブル、椅子などには三朝町産の木材を使用し、地元木材の良さを P R している。

当日はリニューアルを記念して、買い物をした来店者 150 名に先着順で花「ルピナス」をプレゼントした。新型コロナウイルス感染拡大の影響により来訪客が減少した町内への誘客促進、農産物の売り上げ回復の拠点としての機能を目指す。

同 J A 向井常務は「今後も、賑やかな地域交流の場所として、たくさんの人に利用して頂きたい」と話した。



3. ハウス梨「二十世紀」の交配が順調

琴浦町では3月24日からハウス梨「二十世紀」の交配が始まり、作業は順調に進んでいる。2月から3月にかけての好天で気温が上がり、昨年よりも5日、平年よりも約一週間ほど早い交配開始となった。



同町の琴浦梨生産部の部長を務める岩本さんは、20aでハウス梨「二十世紀」を栽培。人工交配筆を使い、家族と作業員の計7人で作業している。

岩本さんは、「適期に交配することで大きさ、形ともに良い梨ができる。今年もおいしい梨に仕上げるので琴浦の梨を県内外に贈ってもらい多くの人に食べて知ってもらいたい」と意気込みを話した。

同生産部は、28戸が県内で最も多い約5.6haでハウス梨「二十世紀」を栽培している。進物用の梨を「琴浦のおもて梨」として商標登録し、一層のブランド化を進めている。盆前全量出荷に向けて8月上旬の出荷を予定し、京阪神、山陽、県内へ1万6,700箱（1箱10kg）、1億900万円の出荷、販売を目指す。

以上